

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

(3)

## 公開実用平成 2-119605

⑩日本国特許庁 (JP)

⑪実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

平2-119605

⑬Int.Cl.

G 02 B 6/245  
H 02 G 1/12

識別記号

序内整理番号

⑭公開 平成2年(1990)9月26日

301 F

7004-5G  
7370-2H

G 02 B 6/00

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全頁)

F

⑮考案の名称

光コード用外被カッタ Coated layer Exfoliating of optical fiber

⑯実 願 平1-28669

⑰出 願 平1(1989)3月14日

⑱考 案 者

片 寄 浩 一 千葉県佐倉市六崎1440番地 藤倉電線株式会社佐倉工場内

⑲考 案 者

上 原 敏 明 千葉県佐倉市六崎1440番地 藤倉電線株式会社佐倉工場内

⑳考 案 者

横 須 賀 洋 千葉県佐倉市六崎1440番地 藤倉電線株式会社佐倉工場内

㉑出 願 人

藤倉電線株式会社 東京都江東区木場1丁目5番1号

㉒代 理 人

弁理士 志賀 正武 外2名



## 明細書

### 1. 考案の名称

光コード用外被カッタ

### 2. 実用新案登録請求の範囲

台部と、これに開閉自在に取り付けられた蓋部との間に互いに連通する横溝と縦溝とを形成し、該横溝及び縦溝の各々の内側に互いに向合って突出する一対の切刃を設けたことを特徴とする光コード用外被カッタ。

### 3. 考案の詳細な説明

#### [産業上の利用分野]

本考案は、断面角形に形成された光コードの外被を切断するために使用される光コード用外被カッタに関する。

#### [従来の技術]

従来のこの種の光コード用外被カッタは、第6図に示すように、ベンチ状に形成されたカッタ本体1の先端の一対の挟持部2a, 2bに、互いに対向する一対の三角形状の切欠部3a, 3bが形成さ

# 公開実用平成 2-119605



れるとともに、一方の挿持部 2aには切欠部 3a内に光コードの外被の厚さ分だけ突出する切刃 4が固定された構成となっており、第7図に示すように、前記挿持部 2a, 2bの切欠部 3a, 3b間に光コード 5を挿さみ、該光コード 5を回転させることにより、切欠部 3aに突出する切刃 4で光コード 5の外被を切断するようになっている。

## [考案が解決しようとする課題]

ところが、前記従来の光コード用外被カッタにあっては、光コードの断面形状が円形の場合には能率良く切断することができるが、光コードの断面が角形の場合には、切欠部の内部でうまく回転させることができないとともに、回転させたとしても切刃の突出寸法が光コードの外被の厚さ寸法とうまく一致せず、断面円形の光コードの場合のように外被のみを切断することができないという問題点があった。

本考案は、前記の問題点を解決するために為されたものであり、断面形状が角形の光コードの場合にも、能率良く切断することができる光コード



用外被カッタの提供を目的としている。

[ 課題を解決するための手段 ]

本考案は、前記目的を達成するために、台部とこれに開閉自在に取り付けられた蓋部との間に互いに連通する横溝と縦溝とを形成し、該横溝及び縦溝の各々の内側に互いに向合って突出する一対の切刃を設けた構成としている。

[ 作用 ]

本考案は、前記のように構成されているため、蓋部を開いて台部に光コードを配置した後、蓋部を閉じることにより、光コードを台部と蓋部とによって形成される横溝内に把持する。そして、横溝及び縦溝の内側に突出する切刃の長さを光コードの外被の厚さと略同寸法とした場合には、光コードを該横溝の内部で移動させることにより、光コードの外被の上下部が切断される。ついで、前記上下部が切断された光コードを縦溝の内部で移動させることにより、光コードの外被の左右が切断される。

[ 実施例 ]

# 公開実用平成 2-119605

以下、本考案を図面に基づいて説明する。

第1図ないし第4図は本考案の光コード用外被カッタの一実施例を示し、断面が四角形に形成された光コードの外被を切断するためのものである。

第5図は切断される断面四角形の光コード、即ちテープコードの断面を示すものであり、該テープコード10は中央部に配設された複数のテープ心線10a, 10a, ···を、ケブラ10bを介して断面四角形のPVC外被10cによって被服したものである。

そして、本実施例の光コード用外被カッタAは、一方の突起部11aが他方の突起部11bより短く形成された断面コ字状の台部11と、該台部11の上部に設けられた断面長方形状の蓋部12とからなっており、該蓋部12の一端面12aが突起部11aの外側面11cに蝶板13によって回動自在に連結されることにより、蓋部12が台部11に対して開閉自在とされているとともに、蓋部12を閉じた場合には該蓋部12と台部11との間に断面L字状の溝14が形成されるようになって

いる。

該 L字状の溝 14 は、台部 11 の凹面 11d と蓋部 12 の底面 12b とによって形成される横溝 14a と、これに連通して突起部 11b の内側面 11e と蓋部 12 の他側面 12c とによって形成された縦溝 14b とからなっており、横溝 14a はこれに配置される光ケーブル 10 の縦寸法 a と同一の高さ寸法とされているとともに、縦溝 14b は前記光ケーブル 10 の横寸法 b と同一の幅寸法とされている。

そして、横溝 14a の所定の場所には、一対の上刃 15a 及び下刃 15b が互いに対向して固定されており、上刃 15a は蓋部の底面 12b から所定寸法(テープコードの外被の上面の厚さ寸法)突出するとともに、下刃 15b は台部の凹面 11d から所定寸法(テープコードの外被の下面の厚さ寸法)突出して配置されており、これら上刃 15a と下刃 15b とは縦溝 14b 側に行くに従って切刃間が次第に接近するように傾斜角が形成されている。また、縦溝 14b の所定の場所には、一対の右刃

# 公開実用平成2-119605



16a及び左刃16bが互いに対向して固定されており、右刃16aは突出部11bの内側面11eから所定の寸法(テープコードの外被の右側の厚さ寸法)突出して配置されており、左刃16bは蓋部の他側面12cから所定の寸法(テープコードの外被の左側の厚さ寸法)突出して配置されており、これら右刃16aと左刃16bとは縦溝14bの上方に行くに従って次第に切刃間が接近するように傾斜角が形成されている。また、これら上刃15a、下刃15b、右刃16a、左刃16bにはその中央部に長穴が形成されており、該長穴に摺動自在に各々挿通されたねじ17によって、台部11及び蓋部12の正面にその突出寸法が調節自在に固定されている。さらに、台部11と蓋部12の裏側には、第4図に示すように、蓋部12を台部11に着脱自在に固定するための係止部材18が取り付けられた構成となっている。

つぎに、前記のように構成された本考案の光コード用外被カッタの作用について説明する。

まず、上下の切刃15a, 15b及び左右の切刃



16a, 16bの突出寸法が、切断するテープコード10の外被10cの厚さ寸法となるように調節し、ついで第2図に示すように、蓋部12を開いて台部11の凹面11dにテープコード10を配置した後、蓋部12を閉じることにより、第3図に示すように、テープコード10を台部11と蓋部12との間に形成される横溝14a内に把持される。

つぎに、テープコード10を横溝14aの内部で右側(矢視X方向)に移動させることにより、横溝14aの上下部分に突出した上刃15a及び下刃15bによってテープコード10の外被10aの上下部が切断される。引き続いて、前記上下部が切断されたテープコード10を、縦溝14bの内部で上方(矢視Y方向)に移動させることにより、該縦溝14bの内側に突出した右刃16a及び左刃16bによってテープコード10の外被の左右が切断される。

このように、本実施例の光コード用外被カッタにあっては、台部11と蓋部12との間にし字状

# 公開実用平成 2-119605



の溝 14、即ち、テープコードの縦寸法aと一致する横溝14aとテープコードの横寸法bと一致する縦溝14bとを形成し、該し字状の溝14の内部にテープコード10を持持し、該テープコード10をし字状の溝の内部を移動させることにより、該し字状の溝の内側に突出する上刃15aと下刃15b及び右刃16aと下刃16bとによってテープコード10の外被10cを切断するようにしているため、断面四角形のテープコード10を容易にかつ能率良く切断することができる。

また、上下の切刃15a, 15b及び左右の切刃16a, 16bの刃間がそれぞれテープコードの進行方向に向って狭くなるように各切刃に角度が形成されているため、テープコード10が切刃に引っ掛けたりするのを防止することができるとともに、ねじ7を切刃の長穴の所定の所定の位置に固定することによって切刃の突出寸法を調節することができるようになっているため、テープコード10の外被10cのみを切断することができ、テープ心線10aに傷を付けたるするがない。



なお、本考案の光コード用外被カッタは、横溝及び縦溝の幅を、切斷される光コードの高さ寸法や幅寸法に合わせて適宜設計変更することにより、各種形状の角形の光コードに適用することができる。

#### [ 考案の効果 ]

上述したように本考案の光コード用外被カッタは、台部と蓋部との間に横溝と縦溝とを形成し、該横溝及び縦溝の内側に互いに突き出する一対の切刃を設け、光コードを該横溝及び縦溝の内部で移動させることにより、光コードの外被を切斷するようにしたものであるので、断面角形の光コードの外被を容易にかつ能率良く切斷することができる効果を奏する。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図ないし第5図は本考案の一実施例を示すものであり、第1図は光コード用外被カッタの斜視図、第2図は蓋を開いた状態の光コード用外被カッタの斜視図、第3図は光コード用外被カッタの正面図、第4図は光コード用外被カッタの裏側

# 公開実用平成2-119605



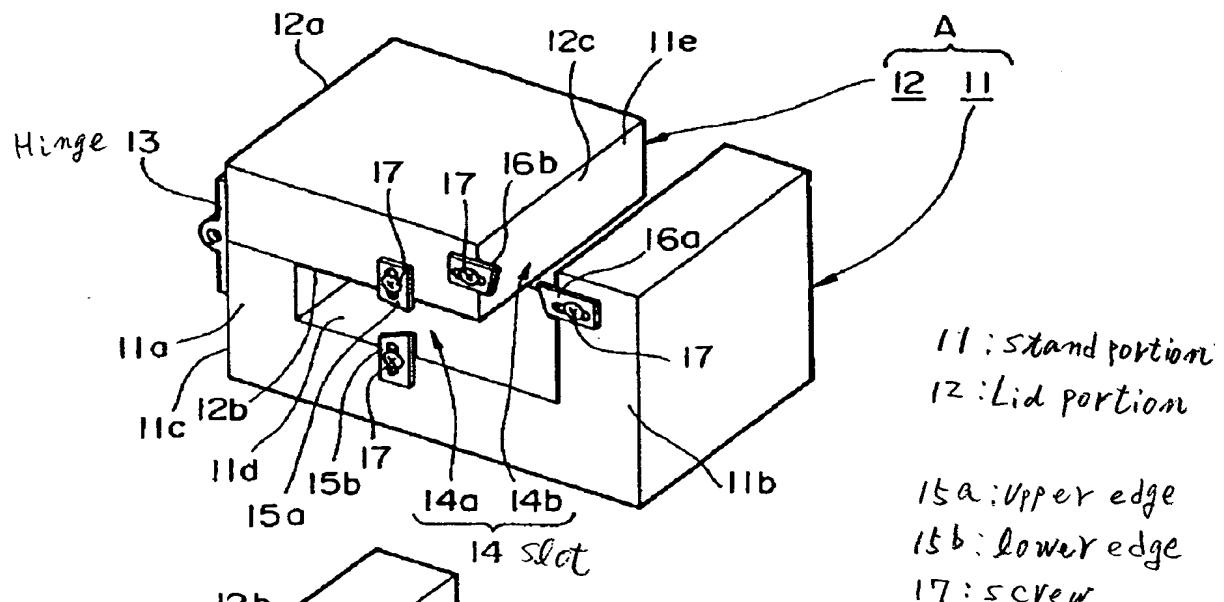
の正面図、第5図は断面四角形の光コード、第6図、第7図は従来の技術を示し、光コード用外被カッタの正面図である。

A …… 光コード用外被カッタ、11 …… 台部、  
12 …… 蓋部、14 …… L字状の溝、14a ……  
横溝、14b …… 縦溝、15a …… 上刃(切刃)、1  
5b …… 下刃(切刃)、16a …… 右刃(切刃)、16  
b …… 左刃(切刃)。

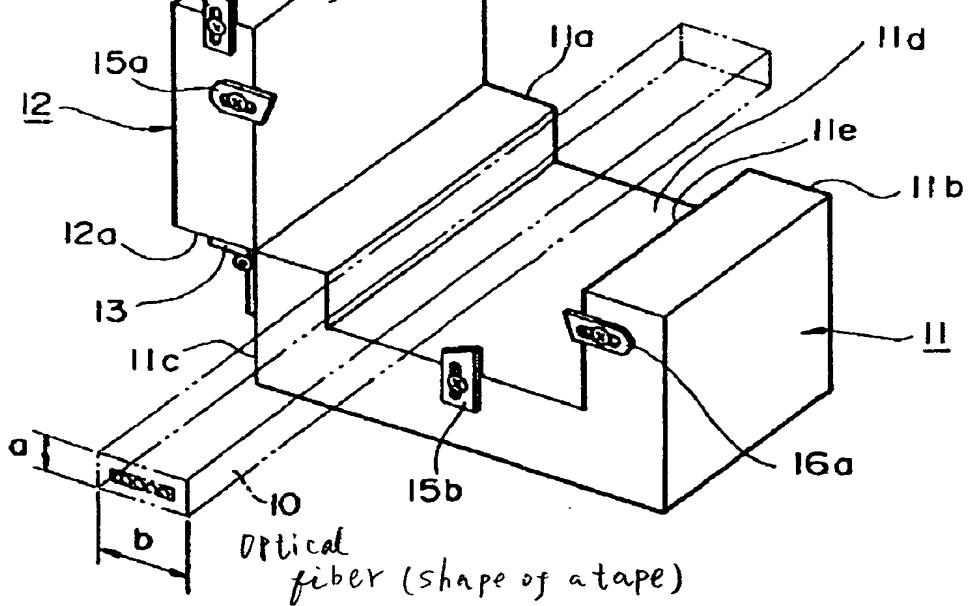
出願人

藤倉電線株式会社

第1図 (fig. 1)



第2図 (fig. 2)



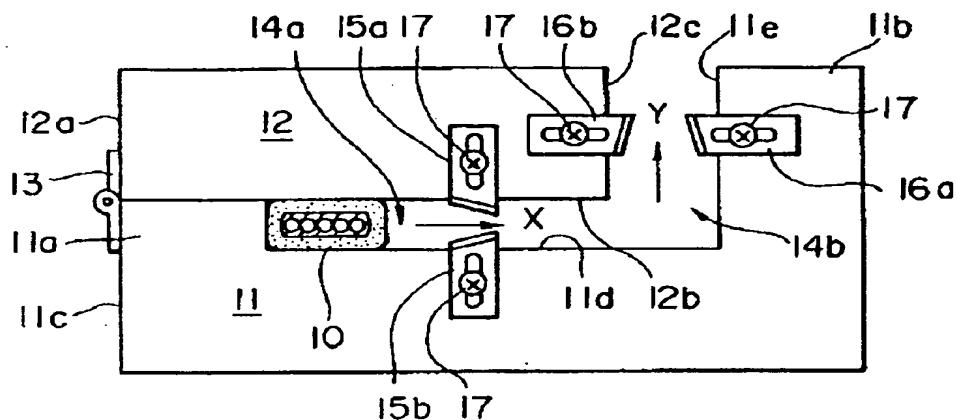
出願人 藤倉電線株式会社

63

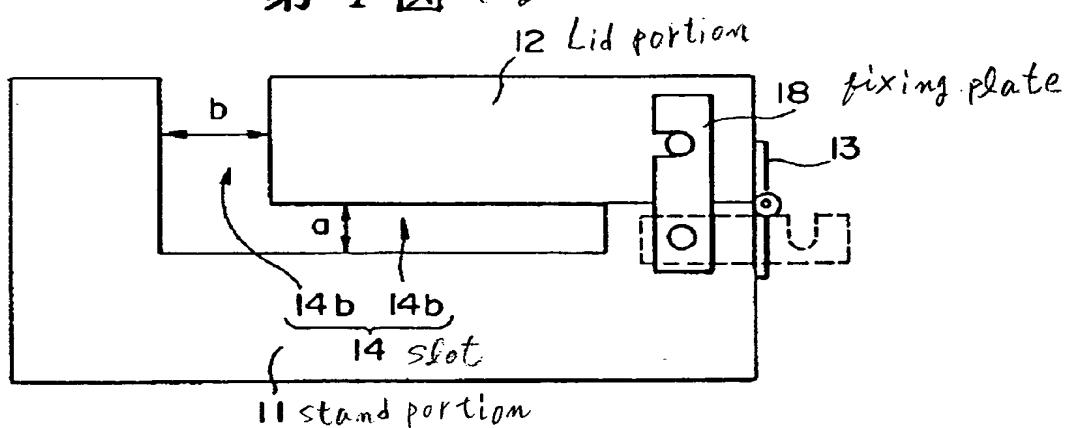
実開2 119605

公開実用平成 2-119605

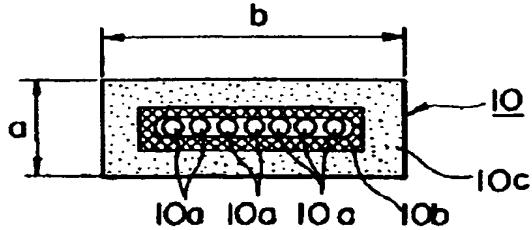
第3図 (fig.3)



第4図 (fig.4)



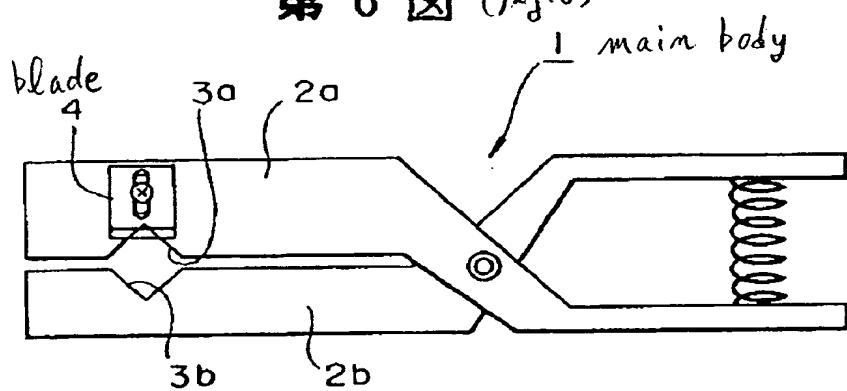
第5図 (fig.5)



64

出願人 藤倉電線株式会社  
実審2 119605

第6図 (fig.6)



第7図 (fig.7)

